

第3回部会の概要

1 開催

令和4年8月29日（月） 午後4時00分～5時30分 大阪港湾局 第8・9会議室（WEB会議併用）

2 議題

- (1) 港湾ターミナルの脱炭素化に関する認証制度について
- (2) LNG バンカリングの取組みについて
- (3) CNP 形成計画（素案）作成に向けた論点について
- (4) その他

3 主な内容

- (1) ・「港湾ターミナルの脱炭素化に関する認証制度の創設に向けた検討会」について共有
- (2) ・大阪港湾局から、LNG バンカリングの取組み状況について共有
・大阪ガス株式会社から、船舶へのLNG供給実施・検討状況と今後のCN化に向けた展望について共有
- (3) ・CNP形成計画（素案）の作成に向けて議論

- (4) ・大阪府における脱炭素の取組み（おおさかカーボンニュートラル推進本部）について共有
・自動運航船について、専門家からのヒアリング内容を共有

4 部会における主な意見

- ・CNP形成計画における「基本的な事項」に関して、堺泉北港を次世代エネルギーの輸入・移入拠点とし、大阪港・阪南港を二次受入・供給拠点とする方向性で理解
- ・合成メタンは既存インフラが活用可能であり、シームレスにLNGからCN燃料への転換が可能
- ・発電所でのゼロカーボン燃料混焼・専焼や、CCUS（CO₂の回収・有効利用・貯留）などによりCNを実現
- ・複数の次世代エネルギーの動向が定まっていない中、国内他港との連携も行いつつ、CN実現手段をより幅広く持つておくことが必要
- ・CN燃料の供給側・需要側ともに将来の見通しが不透明で投資判断が難しい中、公共による取組が重要

部会後の意見照会での主なご意見

< 2. CNP形成計画における基本的な事項 >

- 船舶のカーボンフリーな代替燃料への転換を見据えたバンカリング拠点の形成については、2050年に向けてLNGから合成メタンへの切替えを進めることでシームレスな脱炭素化が可能となるため、次世代エネルギーの受入環境の整備には「水素・燃料アンモニア」だけでなく「合成メタン、LNG」を含めたものとした方が良い。

< 5. 水素・燃料アンモニア等供給目標及び供給計画 >

- CNP計画の推進には水素、燃料アンモニア等の供給インフラが必須と考えるが、民間だけでは困難であり公共の手助けが必要となるため、「検討状況を踏まえ今後整理する」としている「5.(2)水素・燃料アンモニア等に係る供給施設整備計画」、
「5.(3)水素・燃料アンモニア等のサプライチェーンの強靱化に関する計画」について、CNP形成計画の中でもできるだけ早期に計画を立て押し進めたほうが良い。

< 6. 港湾・産業立地競争力の向上に向けた方策 >

- CNP実現に向けた制度や法律等の創設・整備は、事業者等のモチベーションとなりうる要素であろうと考えるが、港湾管理者としてこれに対しどのようなスタンスで臨まれるのか、記す方が良い。